

## 令和元年度第3回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：令和2年2月14日（金）午後1時

場所：犬山市役所503会議室

### ◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 教育長職務代理者 高木浩行 委員 紀藤統一 委員 田中秀佳  
委員 奥村康祐 委員 小倉志保 委員 堀 美鈴

### 事務局

#### 【経営部】

鈴木経営部長

企画広報課

井出課長

小枝統括主査

#### 【教育部】

中村教育部長

小島子ども・子育て監

学校教育課

長瀬課長

神谷主幹兼指導室長

大藪指導主事

記録者 企画広報課 小枝統括主査

傍聴者 0名

### ◆次第

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 教育施策（読解力向上）の検証と次年度の取組について

(2) 小中学校のあり方について

(3) 小中学校におけるパソコンの導入について

4 自由討議

5 その他

6 閉 会

## ◆会議要旨

## 議題(1)について

- ・事務局より資料1～4、当日資料「読解力推進向上プログラム（犬山版）（案）」について説明。

## 【主な意見】

- ・司書が、授業の中に積極的に関わることができようにしてもらいたい。
- ・学校図書館と市立図書館、横の連携をとって欲しい。
- ・各学校図書館の問題点を学校司書で共有し、「足りていない学校にどういう形でカバーすれば豊かな図書館になるか」という視点で考えていただきたい。
- ・「読解力」の捉え方が事務局の中でも考えが分かれている。共通理解を図らないといけない。「それぞれの教科の学習の中で、どういった授業を組み立てていくと子どもたちの読解力が高まっていくのか」を課題として学校現場に投げかけていきたい。
- ・（読解力について）「犬山版」の指導方法を確立して欲しい。見えるようにして欲しい。

## 議題(2)について

- ・事務局より資料5、6-①、当日資料「特認校制度」、「平面図」について説明。

## 【主な意見】

- ・城東小・中学校については、ロードマップを作らないといけない。地ならしが一番重要。どこから地ならしをはじめるか。
- ・これ（城東）については、地域の皆さんや保護者ともよく話し合いをして、全ての方がなるべく理解していただけるように進めていかなければならない。
- ・小規模校は、生かす方法を考えなければいけない。小規模校のあり方は真剣に考えたほうが良い。
- ・校区の問題を解決するためには、別の場所に新しい建物を建てて小中一貫校の学校を作るぐらい視野を広くしてやっていくことが大事ではないか。

## 議題(3)について

- ・資料7、8について事務局より説明。

## 【主な意見】

- ・パソコン導入が目的になってはいけない。授業づくりに生かす準備をしておいて欲しい。
- ・（パソコンを導入して）授業が楽しくなったか、分かりやすくなったのか、を検証し、改善しなければならぬ。PDCAサイクルを回す。
- ・パソコンが入っても、犬山市は「国語教育」。この軸はブレさせてはいけない。
- ・環境整備にあたっては、複数業者から見積をとったり、他市町の導入事例等を比較検証しなければいけない。共同調達の可能性を探って欲しい。
- ・時間軸を意識しないとイケない。
- ・小規模校については、Panasonic財団が補助金を出しているものがあるので、一度見ていただきたい。

## 自由討議

なし

## その他

次回の議題について、下記のテーマから事務局で調整することになった。

多文化共生、特別支援、不登校、いじめ、新しい学習指導要領の実施、子ども未来園、  
（オリンピック開催を生かした）スポーツ振興・体力づくり・健康増進

## ◆会議録

司 会 (井出企画広報課長)	<p>定刻になりましたので、ただ今から令和元年度第3回犬山市総合教育会議を開催します。</p> <p>開会にあわせて、1点お願いを申し上げます。本日の会議は、犬山市総合教育会議運営要項第4条に基づき、公開とさせていただきます。併せて、インターネット映像配信サービス「You Tube」での中継を行っていますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、まず初めに山田市長より、ご挨拶を申し上げます。</p>
山田市長	皆さん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
山田市長	<p>委員の皆さん、お忙しいところありがとうございます。</p> <p>今日の議題でもありますが、社会情勢が本当に色々と変化しております、1人1台のパソコン、GIGAスクール構想というものを政府が発表しました。一気にそういった流れが加速していくなあ、と思っています。前回のエアコンの話ではありませんが、そういった動きを捉えながら、我々もしっかりやっていかなければいけないと思います。間違えてはいけないのは、そういうこと一例えばパソコンを入れること自体が目的ではなくて、いかに良い授業を作っていくのかということが一番重要な趣旨ではないかな、と思っています。変化にしっかり対応していくところは、対応していくところと捉えて、その一方で「私たちはいったい何を大事にしないではいけないのか」ということを決して見失ってはいけない、ということを変更して感じさせていただきました。</p> <p>話は変わりますが、今、新型コロナウイルスが非常に心配な状況にあって、子どもにはなかなか感染はしないのかな、とは言いつつも、やはり色々な形で感染が今、広がって、ひょっとすると日本でも相当深刻な状況が起きうるかもしれないと思うわけですが、やはり我々も「大丈夫だろう」ということではなくて、最悪の事態を想定して備えるべきものに備えるという意識を持つことも大事だと思っています。直接教育が関係するところに関わらないかもしれませんが、実は関わることであったりして一例えばお城にたくさん人が来ていますし、ですからいずれにしても「関係ない」とか「子どもは大丈夫」だとかそういうことではなくて、最悪のことを想定して、備えていけるようにと思っていますので、我々もしっかりその辺りを意識して取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。</p> <p>私からは以上です。</p>
司 会	続きまして、滝教育長、お願いします。
滝教育長	皆さん、こんにちは。
出席者	こんにちは。
滝教育長	<p>市長のお話しにもありましたが、新型コロナウイルスが世界では今、感染者が6万人を超え、亡くなられた方も1,500人にのぼるとも言われています。次々と感染者、死亡者の数が増えている状況でありまして、国内でも香川県で80歳の高齢女性がお亡くなりになられているということが新聞報道でもなされているところでございます。</p> <p>一方、インフルエンザの関係であります、アメリカではコロナウイルス以上に、今シーズン2千2百万人が罹患をされています。そして現在、1万2千人ほどの死者が出ているということで、これはやがて3万人ほどにのぼるのではないかと</p>

推計がされているようです。日本では例年21万5千ほどの方が罹患をされているようですが、今年は7万ということで、例年の3分の1ぐらいの状況だというふうに聞いております。今年は暖かい日が続いているせいか、そんな状況ではありませんけれど、犬山市内では本日、東部中学校の3年生が1学級、一昨日でありますけれども、犬山南小学校の3年生が1学級ということで、例年と比べるとインフルエンザによる学級閉鎖は少な目だなどと思っております。コロナウィルスについても、インフルエンザについても、一日も早い収束を願うばかりでございます。

ところで、今月の3日に松江市の認定子ども園で、節分の豆まき中に4歳の園児が気道に豆を詰まらせて亡くなるというような事件があったようです。3歳ほどの幼児については、気道が狭いということや、噛む力、飲む力が十分でないことから、「豆とかナッツ類は食べさせないほうがいい」ということが言われておりますので、犬山でも幼保、小学校の低学年も含めてでありますけれども、節分の時期はどうしても給食に豆が出るようではありますが、そういったことについては、気を付けていきたいというふうに思っております。

また、12日、大阪市の保育園で1歳の子が給食を喉に詰まらせて、これも亡くなるというような事故がありました。大切な子どもたちの命を預かるという幼保、小中の教育現場であります、重大な責務を再認識すると同時に、少なくとも子どもたちを無事、お家に帰せるような、そんな気持ちで子どもたちをお預かりしたいな、ということをおっしゃっているところであります。

話は変わりますが、2月9日の日曜日朝早くに神戸市の教育委員会の係長—39歳の方がお亡くなりになりました。自殺をされたということですが、どうも東須磨小学校での教員間のいじめ問題で、臨時の会議が色々開かれるわけですが、その調整役をなさっていたようです。加害教諭への給与の支払い、これが市民の批判を受けて、給与を差し止めるための条例制定にどうも専念をされていたようですが、事件に直接関わった人間ではなくて、間接的に事務局の職員が亡くなるということは心が痛んで、やるせない状況であります、内心「教育長は何をやっていたんだろうな。部長、課長は何をしていたのかな」と思わないわけではないぐらいですけれども、部下を守れない組織であってはいけない、ということ強く感じた次第でございます。

また、昨年9月にオーストラリアで森林火災が発生しまして、未だにまだ燃え続けていると聞いております。2月始めの豪雨で3分の1ほどが鎮火したようですが、逆に今度は洪水の心配が出てきたというようなことを聞いております。火災が今週いっぱい恐らく収束する見通しだということでありますけれども、これまでに33名ほどの方が亡くなって、何千軒という家屋が焼失をしたと。焼失した地域はイングランドとほぼ同じ面積だというふうに言われています。これで地球の自然体系が大きく変化をしていかなければいいのにな、ということをおっしゃっているところでございます。

我が国では「令和」という新しい時代が始まって、まだ1年も経過をしていないところですが、国内でも国外でも大変な状況が続いている状況であります。こんな大変な状況であります、こういった局面を世界の人類みんなが一丸となって乗り切っていかなければならないことを強く思っているところでございます。犬山の教育も行政、市教委、市長部局全て皆さんが一緒になって子どもたちのために頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

司 会

本日アドバイザーをお願いしています犬山高校の祖父江校長先生と犬山南高校

	<p>の福島校長先生におかれましては、公務によりご欠席とのご連絡をいただいております。</p> <p>それでは議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。既に配布させていただきましたものとして、次第、名簿のほか8種類の資料がございます。資料1として「読解力向上プログラム 2019年度の取組」、資料2「読解力向上プログラム2020」、資料3「小中学校の図書館充実」、資料4「読解力向上に向けての子ども未来課の取り組み（令和元年度）」、資料5「小中学校のあり方について（意見まとめ）」、資料6「視察資料」－こちらの資料は①と②の2種類ございます。資料7として「児童生徒へのパソコン1人1台案件」、資料8として「GIGAスクール構想の実現 ロードマップ」、それから本日、配布資料として机の上に置かせていただきました。1つ目が「配布資料」とあります「議員対応資料 特認校制度」というもの。2つ目が「校舎平面図及び避難経路図」とあります図面です。3つ目が「読解力向上プログラム 犬山版（案）」というものの3枚です。以上です。資料はお揃いでしょうか。</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。これ以降は犬山市総合教育会議運営要綱第3条に基づき、山田市長に進行をお願いします。</p>
山田市長	<p>はい。では、進めていきます。</p> <p>まず1つ目「教育施策（読解力向上）の検証と次年度の取組について」を議題にいたします。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (神谷学校教育課主幹)	<p>お願いします。資料1をご覧ください。</p> <p>昨年度策定し、実行して参りました「読解力向上プログラム」には、小中学校関係で以下の8つのものが具体策として示されています。それぞれにおいて進捗状況と来年度の予定を書きました。黒丸が来年度の予定となっています。いくつか補足をさせていただきます。</p> <p>3番「系統指導表の活用」です。運用がそれほど進みませんでした。ですから国語教育研究委嘱、〇〇小学校とありますが、読解力－「正しく読む」ということに関して、学校を指定して研究を進めたいと思っています。ここには「外部有識者」とありますように、大学の専門家をアドバイザーとして呼んで、共に研究を進めていきたいと思っています。</p> <p>それから4番、城東小学校の低学年図書館を改修しました。昨年度の南部中学校、城東小学校が今年度、この2つが上手く機能して読書力の増加に繋がっていると聞いております。それらをばねにして、次の学校への図書館改造を進めたいと思っています。図書館改造は言うまでもなく、ハードの改造ばかりでなく、ソフト面での改造も含めてのことになります。</p> <p>最後です。「図書館カリキュラムの完成」です。カリキュラムは完成いたしました。が、実際に授業でどれだけ使われるかという、それほど使えるところまではいっていません。来年度－この後も話しますが、読書活動推進委員会というものを設置して、読書の授業での活用を充実させていきたいと思っています。そこにもアドバイザーを計画しております。</p> <p>資料2をご覧ください。今、お話したような2020年度の計画を支える組織です。ピンク色の所「授業改善推進委員会」は現在あるものですが、国・社・数・理の副教本を作ってきた組織ですが、それらを廃止して、副教本を作る年度のみ立ち上げることにします。その代わりに1つ目－緑色です「読書活動推進委員会」を立ち上げます。そこには、該当する校長、教頭をはじめ、中心は図書館担当者です。学校</p>

	<p>の中で図書館の指導を主に担当している者のことをいいます。それらの者によってこの組織を動かしていきます。2つ目が青色の部分です。「読解力向上研究会」としました。ここには、各校の研究を取りまとめております現職教育主任というものがおります。それらが14人。それから教務・校務—中心となって学校を担う屋台骨である教務主任・校務主任の中から1人出して、併せて24名。プラス主事、アドバイザーを入れて学校公開—学校公開というものは、授業を公開するとき、研究授業を行いますので、それらを報告してもらったり、その報告を受けて意見交換を行っていききたいと思っています。いくつかの学校には、アドバイザーも授業参観をしてもらい、併せて指導いただきたいと思っています。</p> <p>下の段は、もう少し詳しく、今の上の図を示しました。</p> <p>資料3をご覧ください。小中学校の図書館の充実を目指して作られているロードマップです。2020年度には各学校に常駐する司書を配置したいと思っています。それに向けて、来年度2020年度には図書館コーディネーターを楽田小学校に配置し、下にあります「2022」と括弧であるような組織の構成を行って、そして更に図書館の活用、読書量の増加に取り組みたいと思っています。下の図は、今、学校と調整をしているところで、この方法以外にもどのような関わりができるかを検討しているところです。</p> <p>本日お配りした資料をご覧くださいませでしょうか。A3の資料となります。担当主事からお話をさせていただきます。</p>
<p>事務局 (大藪指導主事)</p>	<p>「読解力推進プログラム(犬山版)(案)」ということで作成させていただきました。資料の概要からまず説明させていただきます。資料左上、こちらが「PISA型読解力」—文部科学省が捉える読解力ということで、まとめさせていただいております。読解力とそれを支える、「語彙力」、「要約力」、「思考力」ということで示させていただいております。その右側一番上、「国語科教育における読解力」—これが学習指導要領に謳われている国語の中での読解力を示しております。これは下にずっと繋がっておりますが、各学年—小学校については2学年を一括りとして捉えておりますので、大きく6つの枠組みで、国語についてはこういった力を一特に読解力の部分を示させていただいております。どこに繋がっていくかと言いますと、その次の右上の太く囲んであるところ、ここで「読解力を高めるために」ということで、具体的な組織の部分ではなく、取り組んでいくべき内容ということで示させていただいております。「本を読む」、それから「正しく読む」、「辞書を引く」、「要約する」、「具体化する」、「比較する」、それから「教科書を大切にすること」こういったことに各学校、各授業で取り組んでいただきながら、読解力を高めていく取り組みを進めていくこととなります。その隣—左側にありますのが「読解力測定要素」ということで、現在犬山市が取り組んでおりますリーディングスキルテスト—新井紀子氏が考えた読解力を「これによって測定できるであろう」という要素を挙げさせていただいております。こういったところからその結果を受け、こういった部分の力が足りていないのか、あるいは十分育っているのかを見極めながら、相互に読解力を高める取組を進めていきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>事務局 (小島子ども・子育て監)</p>	<p>それでは引き続きまして、子ども未来課のほうでご説明させていただきます。</p> <p>資料4をお開きください。「読解力向上に向けての子ども未来園の取り組み」とさせていただきます。昨年度につきましては、この「読解力向上に向けて」は、幼児教育・保育の分野では、「言語」という分野になりますが、この考え方について保育者の共通理解を図るために、保育者に向けてのアンケートを実施しました。</p>

	<p>それをもとに『子どもの目安となる姿』をまとめさせていただき、「ことば」という小冊子を作成いたしました。今年度はこの「ことば」の小冊子を活用し、それぞれの園で実践を行って、園内研修、年齢別研修会、それぞれで話し合っただけで更に共通理解を図ったところです。併せまして、保護者研修、保育士研修により、読解力の認識を深めました。また家庭での絵本の読み聞かせを重要視しまして、これを推進するために絵本の貸出を行っております。絵本の読み聞かせの大切さを保護者に認識していただけるように、併せて「たより」一通信です、を作成し、啓発を図るとともに、家庭での絵本の読み聞かせに関するアンケートを取って、その検証を行っているところです。意図について細かい情報を載せておりますので、またご覧ください。</p> <p>来年度につきましては、今年度の取り組みを更に進めていこうと考えております。以上です。</p>
山田市長	<p>説明は終わりました。この件について、何か皆さんのほうからご意見があれば、ご発言いただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。</p>
高木委員	<p>1枚目の8番「図書館カリキュラム完成」というところで、一番下に「各学級の時間割に『図書館』というカリキュラムを組み入れる」というふうに挙がっています。これは視察を終えて、定例教の中でも議論をして、そういうふうに「1コマでも入れられたらいいですね」という話を受けて、実際にすぐこういうふうに政策として取り入れてもらったことは本当にありがたい、という気持ちでいます。もう少し教えてもらいたいのですが、これを組み入れるのは、1週間の授業の時間割の中で1コマ組み入れていくというふうなスタンスでいいわけですか、そういうことができるのは小学校に限るのかな、中学校まで実施するのはなかなか厳しいのかな、ということをおもいます。併せて「図書館コーディネーター」という言葉が出てきました。これも前からあったのかも知れませんが、司書を常駐させるということも第一で、それを横の連携を繋ぐため役割なのかなと思いましたが、これは楽田小と言われましたけれど、市全体を見るこういう意味合いの人なのか、それが何人ぐらいか一人だけなのか、その辺のところを少し詳しく教えていただけるとありがたいです。</p>
事務局 (神谷学校教育課主幹)	<p>はい。1つ目の8番についてです。長久手西小学校もそうだったと思いますけれど、なかなか「全ての学級でというのは難しい時もある」ということでした。とりあえず小学校の中の時間割の中に紛れてもらいますが、長久手のように司書がまだ常駐できておりません兼務をしていますので、全部の学級に司書が絡まってできる授業というふうになるとは思っていません。それぞれの学校で、優先する学年を決めていただき、司書が来る曜日が決まっておりますので、そこにその時間割をはめ込んでいくというふうにイメージしております。目標とするところは、長久手で視察をしたような活動を目標としております。司書自身もあの方とは何度も研修会で顔を合わせておりますので、イメージづくりは進んでいると思います。あとは学校の中の担当者となる先ほど申し上げた図書館担当というものが、コーディネーター力を発揮してくれるように図書館コーディネーターがサポートしていくことになります。</p> <p>2つ目の「図書館コーディネーター」ですけれども、市全体で1人です。月15日のうちの10を図書館コーディネーターとして働いてもらいますので、正確には月10日です。楽田小学校をホーム校として、楽田小学校では、司書が今は兼務ですので、週のうちの2日ぐらい現在の学校司書が行っております。その行かない日をこのコーディネーターが司書としての活動も行います。ですから楽田小学校は、少なくとも</p>

	<p>も月から金まで司書が常駐している状態になります。そのことと、それから図書館コーディネーターは、委員ご指摘のように、他の学校の活動—他の学校で読書活動計画の策定をまとめていますので、その計画が履行できますように、指導していく活動も行います。</p>
高木委員	<p>将来的には例の視察を終えたああいう形に持っていくようにしたいというふう に把握すればいいわけですね。大井さんでしたっけ？ 積極的に授業の中に入っ ていただいて、やっていただいていたので、それぞれの学校の裁量によるところが、 これから出てくるのかも知れませんが、本当に積極的に授業の中に関わってい ただけるような司書の方が活動できるようにしてもらいたい、そのための環境づく りですね。学校の先生がひょっとして—学校の先生からすると、余分な1コマを 取られたみたいに思われる方があってもいけないな、と余分な危惧かもしれませんが、 思ったりしますので、その辺のところも十分に理解してもらって、学校の中で 実践していただけるようにしていただけるとありがたいということと、もう1点だ け。</p> <p>この学校図書館については、担当課がどちらかという是学校教育課という意味あ いだと思ったのですが、市立図書館は文化スポーツ課になっています。そこら辺の 横の連携をしっかりとってもらって、市立図書館のほうもやはり貸し出しをどん どん進めていけるような、そういう横の繋がりだけきっちりとしていただけると非常 にありがたい、という意見です。</p> <p>以上です。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>他によろしいですか、はい、堀委員。</p>
堀委員	<p>資料2にあります「読書活動推進委員会」ここに「図書館担当者」とありますが、 視察に行きコーディネーターの方に聞いた時に、「上手くいくもいかないもこの 方次第」という話を聞かせていただいたんですけど、図書館担当者というのは、 どんな方がなられますか。</p>
事務局 (神谷学校教育課主幹)	<p>図書館担当者は教諭の中の組織を決める上において、一人あてがわれるもの です。ですから国語科でない場合もあります。小学校は特にそうです。国語科でない 方もあります。組織を決めていく時に、主任を決める、そして主事を決めるといっ ていきますと、どうしても後のほうに決まるところがあります。ですからや はりその辺の意識改革をしていきたいと思いますというふうな今、お話をしている ところです。普通の教諭と言いましょか、司書教諭ではないことが多いです。</p>
堀委員	<p>分かりました。いい方になっていただくといいな、ということをおもいました。</p> <p>それからこの「読書活動推進委員会」、もう少し具体的にどんなことをされるの か教えてください。</p>
事務局 (神谷学校教育課主幹)	<p>毎月開催をしていきます。その毎月参加するものは、市の学校司書、図書館の司 書、それから図書館コーディネーターが参加します。年間4～5回と考えていま すけれども、そこには図書館担当教諭—先ほど話題になった図書館担当教諭も参加 をさせます。そこで情報交換をやろうと思っています。学校司書は学校司書で業務 として行わなければいけない事務作業がたくさんあるということなので、毎月、毎月 そればかりだと今の割り当てられた時間では作業が滞ってしまうということが分 かってきましたので、その作業をする—調整をしていくときと、話し合っていくと きと分けたような形になります。やっていく内容は、それぞれの学校で読書計画と いうものを策定していただいていますし、それを見える化していこうとしています ので、それを進める上においては、「こんなアイデアがある」というようなことも</p>

	情報交換していく。そして図書館コーディネーターは、校長経験者でもありますので、この図書館担当者が発言権をたくさん持てるように校長との間を繋いでいくという感じですか。
市長	ありがとうございました。 ほかによろしいですか。はい、奥村委員。
奥村委員	2つほど。今のところも前回、長久手を見させていただいた時に、現場の授業との連携というものが非常に、授業で行われたものが図書館のほうで読んでいるものと連携がとれているように見えたので、そういったところでもできる限り推進委員会の担当だけでなく、現場の先生方のやっている授業の内容が吸い取れるように進めていただけるように、そうすればよりいいふうに具体的に進んでいくかな、と思いますので、それはお願いします。 それともう一つ。教えていただきたいのですが、リーディングスキルテストの中学校1年生と教師50人が受験継続というふうになっておりますが、これは毎年中学校1年生だけが受けて、これはずっと中学校1年生のレベルを測るという方法でいくのか、もう一つの方法－1年、2年、3年と追いかけてテストを行うということも結果が分かりやすいので、その辺りで両方の方向性を考えていただきたいなということと、先生が毎年50人というのも、同じ先生なのか、中学校1年生の担当の教師だけを行っていくのか。これだと小学校の担当の先生方には当てはまらないので、その辺りも、もしどのようにしていくのか目的があれば教えていただきたいな、と思っています。
事務局 (神谷学校教育課主幹)	中学校1年生だけでと考えています。今後もそのように考えています。当初は小学校5年生と中1と計画を立てて、それで小5と中1を追っていきこうということも考えましたが、学力状況調査というものが6年生にあります。中3にもあります。それらと合わせていけるだろうと考えました。お金も1人1,500円かかりますので、結構な額になります。それから小学校5年生でデモ試験をやってみました。そうすると小学校5年生には大変負担が大きいということが分かってきました。そういったことから、現場のほうも含めて中1に限って定点で計測していくというふうを考えました。 それから教師50人が受ける理由は、これらの問題をやって結果が出ます。良く読めていないという結果が出ます。ということは、授業の中で「こういう発問する時にこういうことが理解できていない子たちに発問しているんだ。ならばこういう工夫をしよう。」というふうに授業改善につながるということが言われているので、教師も受けさせています。50人の内訳は、小学校の教員も受けています。校長から始まって、6年生の担任、中1の担任というふうにしています。ただ50人では足りないので、分けて受けています。ですから去年、一昨年受けた方は、来年は受けません。
奥村委員	犬山市全体の先生方が行き渡るようにというふうな・・・。
事務局 (神谷学校教育課主幹)	数年後にはそうしたいと思っています。
山田市長	他によろしいですか。はい、田中委員。
田中委員	1点ですけれども、資料1の裏面について話したいのですが、読解力向上プログラムのアドバイザー候補ということで、まだ決定ではないと思いますが、お話ししたいのは2番目ですが、「この方が」ということではなくて、関係校の春日井市立では少し色々、春日井の状況というのは知っているところなので。この出川小学校というのは、いわゆる「春日井スタンダード」というものを実践しているところな

	<p>のかなと認識しておりまして、アドバイザー候補として挙げられた経緯として、「春日井スタンダード」が参考になるということが経緯としてあるのかどうか、というところをお伺いしたいと思います。質問の意図ですけれど、「春日井スタンダード」一昨今、出川小だったと思いますけれども、研究拠点校として春日井市で行われていて、ここに挙げられている方ではない男性の方がずっと一もともと教育学ではない情報系の大学教授の方が関わっていましたが、あまり実は芳しい話は伺ってなくて、色々私も個人的に調べましたが、形式的に管理するというのが一番メインになっていて、以前も少しお話したかもしれませんが、挙手させる時には必ず右手でさせる。右手は必ず耳にくっつけて真上に挙げるとか、授業が始まる前には必ず筆箱の位置と教科書とノートの位置を全員同じにしておくということから始まります。形式的に管理していくということがかなりベースになっていて、退職された春日井の管理職の先生から「あれはひどい」という話を個人的に聞いたことがありますし、文科省が言うような「深い学び」というところではなくて、あるいは「多様な学び」というようなことが恐らく重要であるし、犬山はそれを実践していくべきだと思いますけれども、かなり形式重視で、話だけを聞いて、あるいは資料をだけを読んでいると、その教授が授業見学をして「まだ左手で挙げている子どもが見られる。早く改善しなさい」というようなことを言っていたり一ということが資料、インターネットでも見られますけれど、出てきます。それで、やはりそういう形式的な管理主義一恐らく40年ぐらい前の実践かな、と私は思ってしまいますが、それで不登校の子どもも出てきているという報告も伺ったこともありますので、仮にそうであれば慎重に候補者一深谷先生も中部大の先生ですので、春日井の状況はご存知かもしれませんが、その辺りの人選あるいは内容を少し精査していただきたいと思いますが、まずは2点目の「春日井スタンダード」というのは参考になるのかどうか、が視点にあったのかを伺いたいと思います。</p>
<p>事務局 (神谷学校教育課主幹)</p>	<p>春日井スタンダードという言葉は、私は知りませんでした。出川小学校は、大分前からICT機器を活用して研究を進めていることは知っていました。出川小学校のこの塩谷さんという方は国語教育に特化した方です。自分自身が授業を行い、そしてその結果を受けて教員と授業づくりをやってくれる方だというふうに聞いています。春日井スタンダードというものが、そうなのかどうか分かりませんが、ICT機器は結局は手段ですので、先ほど市長が言ったとおり、目的にするものではなく、ここの研究は授業づくり、授業改善について大変深い学びをしている先生方が多いというふうに聞いています。私もここの元校長だとかに話を聞く中で、候補として挙げたので、まだ直接お会いしたことはありません。今のようなご意見に気を付けながら進めていきたいと思っています。</p>
<p>山田市長</p>	<p>よろしいですか。小倉さん。</p>
<p>小倉委員</p>	<p>学校の図書館で一各学校ごとでカラーがもちろんあるのと同時に、学校司書の先生の力量によって図書館が違う一差があるというふうに感じています。先生のお話を聞いても「忙しい」と片づけられる先生と、「忙しいけれど、ボランティアの人と頑張っている」という色々な意見を伺いました。各学校で先生の勤められる時間数とか、もちろんボランティアのグループがある、ないとか色々な状況が違うというのはもちろん分かっていますが、各学校の図書館の問題点というものがきちんと吸い上げられていて、学校司書の先生のところで共有されて、足りないところの学校にカバーをどういう形でしていけば、どの学校も豊かな図書館になるかという視点で考えていただけたらいいなと思いました。今は先生にお任せになっていて、先生の力量で終わっているのかなというふうに感じました。</p>

	以上です。
山田市長	ほかによろしいですか。
滝教育長	<p>今、読解力の関係で図書館に関わるお話、ご質問が多かったわけですが、今日、後から配らせていただいた資料の関係ですけれども、「読解力」というものの捉え方が事務局の中でも幾分、考えが分かれています。また学校現場ではどうしても学習指導要領を重視する関係で「国語」という教科の領域から脱せない読解力の理解をされている先生が多いように思います。その辺り、教育委員会がどう考えるか、そして学校現場がどう考えるかによって、やっていることが上手く噛み合わないような状況がひょっとしたらあるのかなということを感じておりまして、一度ここで読解力というものの共通理解を図っていかないと、お互いのやっていることが効果的に現れないだろうと思っているわけです。先ほどから図書館の関係が出ておりますけれど、「読解力を高めるために」ということは、一番上に書いてある「本を読む」ということがあったと思います。本をただ単に読ませればよいということではなくて、やはり「本を読む」というのは、読解力を高めていくための一つの手段です。もちろん本を読んで、読書の面白さを感じさせることも一つのねらいと言われればそうですけれども、読解力という視点からいけば、本を読ませることは一つの手段である。分からない言葉があれば調べる、語彙を増やす。本に触れてある著者の考え方を自分の考えと比較して捉えるとか、そういった意味合いでの読書でありますので、読書は手段であり目的でもあるのだけれども、読解力の視点からいけば、読解力を高めるための一つの手段として学校図書館を整備し、市の図書館を整備し、図書館を活用し本をたくさん読める、本にたくさん触れ合える。文字を読むことに対する抵抗感を無くすというような子どもたちを作っていけたらな、ということで、こういった一覧表ができています。これは学校現場にもこういったことを理解していただいた上で、それぞれの教科の学習の中で、どういった授業を組み立てていくと子どもたちの読解力が高まっていくのか、ということは今後、大きな課題として学校現場に投げかけていきたいな、と思っているところであります。</p> <p>以上です。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>少し確認ですが、この別の紙にあるA3のもの。これに「犬山版」と書いてありますが、この各学年の—この下の半分を書いてある各学年のものというのは、学習指導要領のものをそのままここに持ってきたということですか。</p>
事務局 (大藪指導主事)	ここでは、そうです。
山田市長	それは、「犬山版」とここで銘打っていることについて、この各学年の方針というものはどう考えていますか。「犬山版」というふうにここで銘打っているわけだから。
滝教育長	<p>「犬山版」というのは、むしろこの部分的な所で、「こういう方法をとっていこう」ということで。これは学習指導要領に示された内容ですので、全国の小中学校では一応、これは学習指導要領の縛りがありますので、これは必ず授業で扱って子どもたちに学習をさせなければいけない、身につけさせなければいけない内容でありますので、犬山だけの問題ではないわけですが、こういったことを理解した上で、「国語以外の教科の授業づくりも考えていこうではないか」ということで、あえて参考として学習指導要領の内容をここに挙げさせていただいたということですか。</p>
山田市長	前から言っていますが、ここに書いてあるものは、ある意味、学習指導要領に書いてあるものだから、最低限の部分ですね。だから問題はその能力を身につけさせ

	<p>るためにどういう授業をして、当然、「最低限のものができればいい」ということではなくて、そこをより伸ばしていくということが大事だと思いますが、その授業づくり、指導方法の確立というのが今年度の大きな目標でしたね。指導法の確立というものが。だから、「犬山版」というものを確立して欲しいです。読解力には二つの側面がある。ここに書いてある通りです。PISA型の読解力と国語教育としての読解力。読解力というのは国語だけではなくて、全ての教科に通じるもので、その基盤となる部分なので、この両方の側面を当然捉えていくわけけれども、それを「どうやって子どもたちの成長に応じて高めていくのか」というところが、ちゃんと現場の授業づくりの中でこれはこういうふうにこれが反映されているというものが見えるようになるといいですね。それが犬山版として確立されることが理想です。これは学習指導要領だから、これはこれとして最低限の部分として踏まえていって、犬山版として授業づくりの中に「どうそれが反映されているのか」ということが見えなければいけませんね。</p>
滝教育長	<p>先ほど申し上げたように、読解力の捉え方が個々の先生によっても違う。教育委員会と学校現場とも違う。ですからその辺りを、お互いが上手く回っている状況が心配だったものですから、まずはこういった基礎的なことを学校現場も理解していただいて、一番大事なことは、やはり読解力を高めるためにここで書かれたことがいかに授業の中で具体化されていくかということだと思います。ですからこういった内容のことが、今後、例えば授業をされる時に指導の中に表記ををされていくとか、実際の授業を見て「これが読解力を高めるために、一つの手段として取り入れられているんだな」ということが分かるような、そんな授業づくりをこれからやっていかなければいけないのかな、と。今まではそれぞれがそれぞれの理解で読解力というものをできてきたような気がしています。だから、極端なことを言えば、これからがスタートなのかな、という気持ちでいいわけではない。</p>
山田市長	<p>僕が求めているものは、今、申し上げたとおりのことなので、それがきちっと見える形で進んでいくかどうかということで、それは時間がかかるから、あと2年ください、3年くださいと言うならそれでもいいですが、有耶無耶になるのが僕は一番いやなので、確実に目に見える形で進んでいっているという状況にして欲しいです。</p>
滝教育長	<p>一番良く分かるのは、指導の中にこういった要素がどうやって散りばめられて、実際の授業の中でどういう指導がされていくかということだと思います。これは国語という教科だけに限らず、例えば算数、数学であり、理科であり、ですから、その辺りが認識にズレがあると、なかなかそういった形で表れにくいところがありますが、そういったことを今後、学校現場にお願いをし、授業を見て、そういったことが感じていただけるような授業づくりをお願いしていかなければいけない気持ちです。</p>
山田市長	<p>現場でやっていただく人が一番重要だし、皆さん、頑張っているとは思いますが、これからもそれは取り組んでいただければと思っていますが、いつも言うように見えないとやっていないのと一緒ですからね。「やっています」、「頑張っています」、「こういうプログラムを作りました」とお題目を並べているだけではやっていることにはなりませんから。見えるようにして欲しい。それ1つ。</p> <p>で、ちゃんと時間軸を持って欲しいです。別に「今、こういうふうに取り組んできたけれども、こういう課題があって、ここで今、時間がかかっています。」ということ、ちゃんと説明していただければ、それは理解できるので。だけれども、なんとなく「大変だ」、「難しい」と愚痴で終わっているようなことではダメだと</p>

	<p>ということです。今がそうだと言っているわけではないですけど。ということなので、そういうふうに皆さんで力を合わせて頑張ってやっていきましょう。</p> <p>もう少し見えるといいですね。「授業づくりにこういうふうに反映されてきている」と。いつもの言うように「一体どの学年にどういう能力が身に付いていたらいいのか」という「年齢に応じた到達点と、到達点に達する、あるいは到達点以上に力を伸ばす、そのための授業づくりはこれだ」という、それが「どう授業づくりに反映されているのか」ということが見えるようにしてほしい。何度も同じことを言いますが、それをちゃんと時間軸を持って取り組んでいって欲しいです。内容を「読解力」の解釈だとか、それは先生方の考え方もあるから、ここで言い出すときりがないので、それはまた現場で皆さんに話し合っただけで考えてもらえばいいです。僕は僕の考え方はありますけれど。</p>
滝教育長	<p>これも見える化の第一歩だとして理解いただければいいのかなと。「読解力を高めるために」と言葉では書いてありますが、今後これをいかに具体化していくか、授業の中でこういった場が作られていくか、ということですので、この辺りは今、まだ十分にできている状況ではありませんけれども、今後こういったことに力を入れて授業づくりをしていく、学校現場でしていただけるようお願いするというふうにご理解をしていただけたらと。</p>
山田市長	<p>くどいようですが、有耶無耶になるのが一番嫌なんです。お茶濁しになるのも嫌なんです。</p>
滝教育長	<p>これはお茶濁しをしないための方法なんです。</p>
山田市長	<p>だから、ちゃんとそれが、例え時間がかかっても、見えるようにちゃんと進んでいけば、それで僕はいいと思っているので。そうなるように。</p>
滝教育長	<p>これで読解力のブロックができたとは思っていませんので。これはあくまでも第一歩でありまして、これからこういった形で具体化をするかということをお学校現場と共に考えていきたいと思っています。</p>
山田市長	<p>はい。ではそれをお願いします。</p> <p>他によろしいですか、この件については。</p> <p>では、この件は終わって、2件目。「小中学校のあり方について」、事務局のほうからお願いします。</p>
事務局 (神谷学校教育課主幹)	<p>では、資料5をご覧ください。ここまでのところでも何度かこのことを話題にしてきていただいていますので、それをまとめてあるものです。城東小学校、中学校については、2行目「新たな教育システムが生まれるのではないか。」という可能性を膨らませています。小中一緒に考えるメリットが大きいのではないかと。</p> <p>小規模校のことも話題になりました。3行目「今井や栗栖に住む人たちの思いを無視できない」。一番下「学校選択制を一方通行にするわけにはいかない。結果的に『子どもたちがいなくなってしまう』ということにならぬように気を付けたい」ということです。今日、当日配布の資料の「特認校制度」という資料を参考にしてください。</p> <p>資料6の①です。視察に行ってきた学校の資料となります。両校とも2013年、平成25年の創立、小中連携校となります。校長先生のお言葉を借りれば、「2世帯住宅」というようなお言葉がありました。「たいへん使い勝手良くやらせてもらっています」という校長先生からのお話でした。今日、追加の資料として出させていただいたのは、運動場を含めての平面図です。参考にしてください。日進北中学校は14学級402人、特別支援学級が3つ。小学校はこのお隣の竹の山小学校のみならず、他の地域の香久山小の一部が来ることになっています。竹の山小学校は全部北中学</p>

	校に行きますが、21学級520人の学校です。カラーになっていますので、ちょうど表面のピンクの部分が中学校が主に入るところですー「中学エリア」と書いてあります。黄色い部分が小学校エリア。そして共通エリア。こんなふうに分かれています。プールも1つ。体育館は2つありますけれども、共有することによって効率的に使われているのではないかな、と思いました。 以上です。
山田市長	はい。説明は終わりました。この件について何か意見があれば後ご発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。 特にないですかね。 はい。これは過去の意見ですか。この小中学校のものは。
滝教育長	これはどこから出てきたもの？
事務局 (井出企画広報課長)	これはこれまでこの場で出たものをまとめたものです。
山田市長	城東はロードマップをちゃんと作らなければいけないですね。まだ先だからとボチボチやっていると、この手の話は地ならしが一番重要だから、どこから地ならしを始めるかというロードマップを持たなければいけないですね。 意見として言っておきますが、この手のものは早めにやらないと。時間がかかるから。学校を変えていくわけだから。変えるといっても「どういうふうにしていくか」ということですが、早めにその・・・
滝教育長	そうですね。楽田が終わると犬山南小学校、その次が城東ですけど、大きな変化ですので、これについては地域の皆さん方や保護者の方ともよく話し合いをして、双方というか全ての方がなるべく理解していただけるよう進めていかなければいけないかなと。今年の教育委員会の視察が日進北中と竹の山小学校、これは小中一貫と言いますか、学校を見にいったわけですが、いくらかかったと言っていましたかね。50億でしたか。「金がかかるな」ということを改めて思いましたが。何も無いところに作ったということで、校舎から運動場の整備から駐車場から全て入れると50億というとんでもない金額が出てきたわけですが、果たして城東小中の建築にそれだけの経費がかけられるかどうかというと、多分、難しい部分もあるものですから、できれば城東小中はくっつきという利点もあるものですから、それを上手く生かしてここまではいかにしても、これに似たような小中の一貫校ができたらいいなと。そのためには時間をかけて、地域の方とも十分話し合いをして、というつもりではいるわけですけども・・・
山田市長	僕が言っている話は単純なことで、ロードマップを作るといいですね。要するに「地ならしをいつからは始めるか」ということを早めに決めておかないと、「時間だけ過ぎて地ならしが後手に回ることだけはやめてくれ」ということを言っているだけです。はじめからこれを決めておいたほうが良いと思う。どこから地ならしに入るか。建物なんかはこちらがどうのこうのというよりも、また犬山南小と一緒に何かコア抜きか何かして建物の体力度をみて建て替えか現在の改修かで判断するわけですよ？
事務局 (長瀬学校教育課長)	そうです。
山田市長	ということは、校舎そのものをガラガラポンみたいにできるかどうかは今の状態でいくと分からないから。だからそこら辺のことを犬山南小が終わったら、ここにくるので・・・
滝教育長	犬山南小と並行してやるぐらいのつもりで。

山田市長	<p>そうです、地ならしは。だから、それを決めておいたほうがいいです、という意見だから。あとは教育委員会で考えてもらえばいいと思いますけれど。</p> <p>それからもう1つは小規模校の話です。これも前から言っているように、基本的には小規模校というのは、「少ないから潰す」という考え方ではなくて、まず生かす方法をやはり我々が努力しなければいけないと思います。定住に関することは我々も行政として精一杯やっていますが、やはり小規模校というのは、小規模校だからできることを考えて、選択肢として一小規模校を一つの選択肢化するということが大事だということを以前から僕は言っていました、ここで答えを求めるものではないですが。これも「大変だ」、「どうする」と言っているだけではなくて、やはりアクションですね。前、極端なことを僕は言いましたが、1回公立をやめて、どこかの民間にやらせてみるとか一極端なことを言うと。全然違う選択肢になるわけです。学区も取っ払ってしまって。だから、そういうことを選択肢として大胆に考えて、議論していかないとダメだと思います。悩んでいるだけで何も変わっていかない。だからそこを真剣に考えたほうが良いと思います、小規模校のあり方は。</p>
滝教育長	<p>これが元々出てきたのは、高木委員さんが「これからの学校のあり方を考えていかなければいけない」というのが発端。多分思っているところがあると思いますが。</p>
高木委員	<p>私がここにあるもので言うなら、一番上、更に先のことも考えないといけないと思っているので「東小と東部中学校のあり方」という言葉があります。併せて南部中学校が10年後には、今、出生数からいくと9クラスになってしまうという現実があるわけです。東中と同じクラス数。特に中学校は教科担任制になりますので、担任の先生を確保するというのは非常に小学校と違って難しい。私はむしろ今、小学校は今のスタンスで、市長が言われた極端な方法で何か変えるといいなど。具体的にあるわけではないですけど。中学校のほうがもっともっと迫っている気がしてならないものですから、極端なことを言うと、同じところに同じ建物を建てると、やはり変わらないので。校区の問題とかを解決するには、むしろどこか別の場所に建てるぐらいの一土地があるかないか全然わかりません。無鉄砲なことを言っているかも知れませんが、新しい建物を建ててしまって、そこに例えば小中一貫の学校を作るみたいな、何の実現性もある話ではないと思いますが、それぐらい視野を広くしてやっていくことが大事ではないかな、ということをや前から思っています。</p>
山田市長	<p>僕はとにかくこういう話は、やはり時間を大事にしていかなければいけないと思うので、1年ほったらかしておいたら1年遅れるわけですから。まず具体的にそういうことを議論して、方向づけをしていくことが大事だと思います。今のお話も先々は絶対に出てきますが、先だからいいということではないですから、今の中学校の話は。別に建てるということも1つの方法は方法ですね。</p>
高木委員	<p>実現性があるかないか分からないですけど。</p>
山田市長	<p>では、いいですかね、これは。</p> <p>では、2点目はこれで終わります。</p> <p>次に3点目。「小中学校におけるパソコンの導入について」。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (長瀬学校教育課長)	<p>はい。それでは資料7をご覧ください。</p> <p>文部科学省から「児童、生徒へ1人1台パソコンを導入しなさい」ということで、今、分かっている範囲内でお示しできる資料になります。</p> <p>まず現状です。①で14小中学校のコンピューター室にある端末と児童生徒数の比</p>

較になります。現在、パソコン、ノートパソコン、タブレットを合計632台導入しています。生徒数で比較すると9.5人に1台になっています。ネットワーク環境については、通信速度が1 G b p s以上の環境にあります。市役所と各学校間については、100M b p sでネットワークを組んでいます。ソフトウェアは、SkyMenu、ライズさんのeライブラリ、ジャストを導入しています。

「国での予算化」については、一昨日、愛知県の説明会がありまして、校内LANの整備と電源キャビネット―要はパソコンの保管庫になりますが、充電をする保管庫を含めた工事については補助率が2分の1、上限が3,000万円。実質の補助金額は3,000万の半分、1,500万が上限になります。小規模校等、工事が比較的安価に済むようなものについては下限が400万円と聞いています。ネットワーク整備については、令和元年度の国の補正予算に対応するために現在、3月議会に補正予算を上げられるよう検討中です。右矢印のところに、犬山市は一応、国が言っている1 G b p sの通信速度は整備済みですけれども、1人1台に耐えうる環境でなければ工事をやりたいと思っています。

続いて2番のパソコンについてです。こちらについては、ノートパソコンであればキーボードがあるのでいいのですが、iPad、タブレットにする場合も外付けのキーボードを有線で繋げないとダメということで、1台当たり45,000円の補助金がきます。その他の付属の大型モニターであるとかは対象外となっています。

③として、その補助をもらうには「4つの計画を作りなさい」と言っていますが、この計画については、後付けていいと聞いています。

「市での予算化」については、今、お話したように、校内LANの整備と電源キャビネットの工事を考えています。校内LANの整備については、1 G b p sではやはり大きい学校―例えば城東小学校ですと800人子どもたちがいるので、800人全員がネット環境に繋ぐとなると1ギガでは少し足りないかもしれないということで、10ギガに上げる工事を考えています。

裏面にいっていただきまして、パソコンについてです。端末については「去年の5月1日現在の児童生徒数で計算をなさい」とありまして、6,014人子どもたちがいるので、その3分の2の4,009台は補助対象。2,005台については「交付税対応ということで考えなさい」と言われています。一昨日、県の説明会がありまして、それからセミナーに色々参加をして文科省の方の講演を聞きながら、導入を進めていかなければいけないと思っています。

「その他」のところについては、たまたま5Gの研修があったので、その中で質問をさせていただいた内容になります。

資料8の「ロードマップ」をご覧ください。こちらについては、文科省のほうで作成されたロードマップになります。まずは令和元年度から令和2年度にわたってネット環境を整備しなさい。端末については、小5、小6、中1を令和2年度中に導入ということで、この学年の導入については自治体に裁量があると思っていたところ、一昨日の説明会では、この学年どおりに導入をしないと「国の補助金はない」と言われましたので、小5、小6、中1の学年の子は先ほどの6,014人の中で、うちでいくと2,000人ぐらい該当者がいますので、まずは小学校5年、6年、中1の子たちの端末を整備するということで、今、進めているところです。令和3年度が中2、中3。それから令和4年度が小3、小4。令和5年度が小1、小2という順番で端末の整備をこのロードマップどおり進めていくということになります。現在お話できるのはこの程度ということで、ご理解をお願いします。

山田市長

説明は終わりました。この件について何か皆さんのほうでご意見ありますでしょ

	<p>うか。よろしいですか。</p> <p>特になければ僕のほうから1点だけ言いますが。冒頭にも言ったように、国が言っているからといって、パソコンを入れることが目的になってしまっは一番いけないのでー莫大な金を使ってーですから、授業づくりが当然、現場に求められてくるということです。だから授業づくりにどう生かすのかということ、これが入ってくることはもう避けられないと言うか間違いないので、各先生方、学校で授業づくりに生かすための方法をきちっと準備しておいて欲しいということです。まず1つ。その「授業づくりに生かす」というのは、パソコンかタブレットが入ったことによって、「授業が楽しくなった」とか「授業が分かりやすくなった」とか、それが生かされているかどうかの指標になると思います。だから「授業に生かす」ということが1つ。</p> <p>それから今も少し触れましたが、2つ目は「検証」です。本当にこれを入れたことによって「授業が楽しくなったか」、「分かりやすくなったか」とか。これは検証しなければいけないと思います。これだけのお金を突っ込むわけですから。逆に言うとそうになっていなかったらそうなるように、「どうやってこれを生かしていくのか」というPDCAをしっかりと回さないを入れる意味がないので、この検証と改善ー「入れた以上、PDCAをしっかりと回す」ということをやっていくべきだということは2つ目の僕の意見です。</p> <p>それから3つ目の僕の意見は、パソコンを入れて、これは色々な授業に当然活用されていくと思いますが、プログラミングというものも入ってくるわけです。だけど犬山はやはり「国語教育」です。その軸は絶対ブレさせてはいけないということです。これが3つ目の僕の意見です。</p> <p>それから、今3つ言った意見と少し別の話で、導入にあたっての意見ー導入というのは、少し事務的な市役所の中の話になるかも知れませんが、まず、どういうレベルの環境整備をするかということです。さっき10Gでしたか、どのレベルの環境を入れていくのかということ、それからどういう端末を入れるのか、ということ。それからこれからデジタル教科書がセットですよ、当然。こういうものを入れるということは。デジタル教科書でこれ使っていけないとダメなんではしょう？</p>
事務局 (長瀬学校教育課長)	<p>そうです。</p>
山田市長	<p>だから、そういうものもどういう形でそれを入れていくかということ。それから付属品です。タブレットだけあっても授業はできないーできないことはないでしょうけれど、付属品です。</p> <p>そういった今、4つぐらい言いましたが、そういったものの環境整備をしていくにあたって、やはり素人が考えていると判断を間違える可能性があるんで、やはり専門的な見地から複数の業者に見積もりをとるなり考え方を聞くなりして、比較検証しなければいけません。業者は商売なので、実際に最近導入した他市町の導入事例というのをやはり検証して、そこともやはり比較検証しなければいけません。ですので、機能的な部分だとかコスト的な部分だとか契約の方法、そういうことを比較検証して欲しいというのがまず1つ。</p> <p>2つ目が今の「契約のあり方」と絡みますが、当然、これは全国的に進んでいくわけなので、当然、機材を調達するのに犬山市単市で考えるのではなくて、複数の自治体と共同調達をしてコストメリットを出すということ、これもやはり比較検証の中でやらなければいけない。それをやるためには、本当に共同調達しようと思ったら、うちだけで「やりましょう」と言っても一人ではできないので、仲間を作る</p>

	<p>ための地ならしが必要です。場合によっては首長同士で話をする場面も出てくるかもしれません。その時は僕は動きますから。そういう意識で色々な可能性を探っ て欲しいです、共同調達の可能性。同じものを入れるにしても安くいいものを入れた いというのは、当然のことですから、そういうことを少し比較検証して欲しい。共 同調達も考えて欲しいということです。</p> <p>あと3つ目。これも時間軸です。今、言ったことを国の補助もとりながらやって いくと、時間軸ということが当然あるわけですので、担当を忙しくさせてしまうし 申し訳ないですが、少しここは頑張ってください、ちゃんと時間軸を意識してや っていかないとまずいと思うので。</p> <p>その3つです。僕の意見として申し上げました。</p> <p>あとは、良かったですか、皆さんのほうからは。</p>
滝教育長	今の関係ですが、3月の補正であてられそうかどうか。
事務局 (長瀬学校教育課長)	一応、ネットワーク環境の整備の工事については、国に手を挙げる期限が17日の 午前中になっていまして、今日の午前中にある業者さんに来てもらって、今出ている 数字から精査して、だいたいこの上限3,000万に収まるように、一国からも「収 まるように」という指示が来ていて一何故かという、令和元年度で手を挙げると ころが膨大にあるらしく、各自治体としては入札の結果、例えば3,000万が2,000万 になって、補助金が1,000万になって、500万残るということはありがたいこと ですけど、国としてはその余ったお金を令和2年度で手を挙げる自治体に持ってい けないということを説明会の時に言っていました。なるべく令和元年度で手を挙げ るところは「数字を精査しろ」と言われていて、今日、午前中にもう一度業者さん に聞いて詳細に見積もりをもらい直し、月曜日に数字を上げるようにしたいと思っ ています。市長が先ほど言われたように3月の補正予算に上げる前にもう少し他の業 者さんにも見積もりをいただいて、バックデータとして持っていたいと思ってい ます。
滝教育長	では予定としては上げるつもりで進めているということですか。
事務局 (長瀬学校教育課長)	はい。
奥村委員	一ついいですか。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	今の「業者さん」というのは、コンピュータの関係ですか？
事務局 (長瀬学校教育課長)	はい。そうです。コンピュータというのは、ネットワーク環境の工事だけです。 端末はまだ手がつけられてなくて・・・
奥村委員	そういうことですか。
山田市長	端末の補助申請というのはいつあるのですか。
事務局 (長瀬学校教育課長)	補助申請は、1回目が3月の中旬ぐらいと聞いていますが、令和2年度以降はま だ聞いていません。
山田市長	はい。他によろしいですか、奥村委員。
奥村委員	ソフトバンクさんとか、そういったところの大手さんには聞かれたんでしょう か。犬山にはソフトバンクの関係があるので、そういったふうな・・・
事務局 (長瀬学校教育課長)	一度聞く予定です。来週に来ていただきます。
奥村委員	そういった繋がりでもっと端末から色々なものまで合わせて値打ちにしてい ただける可能性も無きにしもあらずだと思いますし、僕が前に見たのは、Panasonic

	<p>財団というものが補助金を出しているものがある、それは遠隔授業を行う学校、特に1学年が1人ぐらいの本当に小さい—今井とか栗栖のような学校で、Panasonic財団が費用を出してパソコンとか全てを設置して、ネットを經由して世界中と、同じ小さな小規模学校同士と一緒に授業をやる。そうすると一人ではなくて、何人もたくさんで授業が行えるというようなシステムもやったりして、これは私立とかではなくて、公立の小学校。種子島とかそういったようなところで実際に行っているというのが、今でも60校ぐらいあるそうです。ですから、そういったようなところからも調べて、特に先ほどの今井や栗栖のほうは、そういったところでも費用面とか学校の色々な面で進められるかな、と思うので、一度そういったところも見ていただけないかな、と思います。</p>
山田市長	<p>はい。他にありますか。</p> <p>特にないようですので、議題のほうは終わらせていただきます。</p> <p>次に自由討議に入りますが、自由討議ですので、皆さんのほうから何か討議のテーマがあれば、ご発言いただきたいと思いますが、何かございますか。</p> <p>特にいいですか。では、自由討議は特にないようですので、5点目の「その他」、「次年度の犬山市総合教育会議について」ということで事務局のほうから説明をお願いします。</p>
事務局 (小枝)	<p>次年度の総合教育会議につきましては、今年度と同様に3回程度を考えております。3回の時期につきましては、5月、11月、2月頃を予定しています。詳細につきましては、改めて調整させていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>次年度も基本的には今年度と同様に進めて参りたいと考えておりますが、1つ変更したい点がございます。議題についてですけれど、今年度は1年分を予め決めておいて、必要に応じて議題を追加するとしておりましたが、よりタイムリーな議題、より闊達な議論をしていただくために、次年度からは直前の総合教育会議の場で次の議題について調整することにしたいと考えております。つきましては、今日、この後ですが、次回5月に予定しております総合教育会議の議題について、ご提案等がありましたら、ご意見をお願いいたします。</p>
山田市長	<p>はい。説明は終わりました。</p> <p>「テーマをここで決める」ということですね。どうでしょう、皆さんのほうから何か「こういうテーマでやったらどうだ」ということがあれば。</p> <p>テーマは色々あるとは思いますが、なかなか教育委員会の部署の中でも学校教育課とか子ども未来課に関するテーマがどうしても多くなっている傾向というか、今までそれしかやっていませんが、他にも歴まちの分野や文スポの分野もありますので、そういったところからテーマを出してくるというのも一つでしょうし。それから学校の関係で言えば、やはり最近—これは学校だけではないかも知れませんが、多文化共生—要するにそういう子どもたちも増えてきていますので、そういった多文化共生の問題であったり、特別支援の関係であったり、若しくは不登校やいじめの関係であったり、そういったこと取組状況などは教育委員会としては定例教でやってみえるのかも知れませんが、そういうこともテーマになり得るのかと思いますが。</p> <p>どうですか。今、ばくっとした話で言いましたけれども。</p>
滝教育長	<p>なかなか現時点で5月のテーマと言うと……。4月から新しい学習指導要領が小学校で完全に実施になります。そういった取組も含めて、教育委員会として学校現場に期待をして、用意しなければいけないものが十分に用意ができているかどうかも含めて、検証をしていけないといけない部分があるのですけれども、1つは、</p>

	新しい学習指導要領の実施というものが上手く学校現場でなされているかどうかがあるかな、と思いますが。
山田市長	「保存活用計画」はいつできるんですしたっけ？
事務局 (中村教育部長)	お城ですか、それとも地域・・・
山田市長	お城。
事務局 (中村教育部長)	来年度。
山田市長	来年度？ 今年度じゃなかったんですね。もう1年かかる…………
事務局 (中村教育部長)	半分までしかできていません。史跡と建造物と両方あって、史跡のほうは残っています。
滝教育長	それこそ子ども未来園でも羽黒と羽黒北のことだとか、橋爪・五郎丸のことだとか、それから文スポでいくと……。それぞれの課が一つずつ大きな来年度に向けての課題があることはあります。
紀藤委員	よろしいですか。
山田市長	はい、紀藤委員
紀藤委員	ずっと今、自分で考えたことは、もうすぐ東京オリンピックがあります。それを学校教育にどう活用できるのかな、ということをいつも考えています。僕自身がちょうど中1だったか小6かの時にオリンピックがありました。その時には体育の時間は必ずテレビを見ていただけでした。そういうことではなく、例えば新聞にもメダルラッシュの話がいっぱい出てきたりすると思います。それで子どもたちに運動する喜びとか、身障者の問題、車いすの問題とか、そういうことも取り上げてくると思います。だからそういったものをいかに教育に—この1年しかないの、夏休みまでの間にどうやってこの1学期持つて行くといいのかなと考えていて、来年度、是非教育に取り入れられたらなと思います。ただ具体的にと言われると、大型スクリーンでどうのこうのということがネットでも出てきますが、そういうものではなくて、新聞を生かすという方法もあるだろうし、ということは思っています。
山田市長	ありがとうございます。 ほかにありますか。何か「こんなテーマはどうだろうか」とか。もしあれば。 無ければ、さっき色々キーワード的に言いましたが、そういう中からチョイスするとか。今、紀藤さんがおっしゃった話は来年だともう時期が決まっているので、それは一つスポーツとかああいう体力づくりとかそういうことにひっかけて取組状況についてするか……。オリンピックそのものと何か直接リンクすることが犬山市としてはなかなかありませんが、ただ、今おっしゃったように、スポーツ振興とか体力づくりとか……
紀藤委員	そのことが健康増進とかに繋がっていくという。せつかくあるチャンスなので活かしたいとは思っています。
山田市長	今、何か色々キーワードが出てきたので、またその中で。 皆さんの中で「これ」という具体的なものが今、ここでは出ないので、また先ほどから出ているようなキーワードの中からまたテーマを少し事務局のほうで調整させてもらうということでもいいですか。 では、また調整していくということで、お願いします。 以上ですね。 では、皆さんのほうから特に無ければ、これで総合教育会議を閉じたいと思いま

	す。 おつかれさまでした。
＜ 閉 会 ＞	